

MTB-O 世界選手権
2006 年 7 月 9-13 日
フィンランド

日本じわり最下位脱出

早野哲朗

4 回目を迎えた MTB オリエンテーリング世界選手権。ここまで日本は連続参加ながらも、毎回最下位。いよいよ脱出するか？

第 4 回マウンテンバイク・オリエンテーリング世界選手権大会
2006 年 7 月 9-13 日
フィンランド・ヨエンスー



目標は最下位脱出

今回で 4 回目となる MTB-O WOC、日本チームは毎回参加しているが、今年は準備の動き出しが遅く、セクションレースが開催されたのは、大会開始まで 2 ヶ月弱となった 5 月下旬であった。

5/21(日)に新隆徳氏(入間市 OLC)を中心としたごく少数の運営で、土砂降りの雨と激しい雷の中、「第 1 回 MTB-O ジャパンカップ」として数少ない MTB-O 専用マップである「宮沢湖」(埼玉県飯能市)を使用して開催された。

セクションレースの開催決定から開催まで期間が短かったこと、また本大会までの期間も短いことから上位通過者からも何名か辞退者があり、この時点で男子 3 名、女子 1 名のみ WOC への参加が決定。

さらに、WOC でリレーチームとして走りたいとのメンバーの強い要望から、調整を経て、最終的に男子 6 名、女子 3 名の選手団となった。9 名中、7 名がアドベンチャーレース/とれとれ/トライアスロンなどの出身。2 名がオリエンティアの構成である。

()内は、海外の MTB-O 参加経験と主な出身競技。

宮原崇(とれとれバイク)

(第 2 回、第 3 回 MTB-O WOC 参加)

芝田敏仁(アドベンチャーレース)
(第 3 回 MTB-O WOC 参加)

渡司充(とれとれバイク)

新隆徳(オリエンテーリング)

(第 2 回、第 3 回 MTB-O WOC 参加)

足立辰彦(トライアスロン)

(第 2 回、第 3 回 MTB-O WOC 参加)

早野哲朗(オリエンテーリング)

原田彩子(アドベンチャーレース)

森本深青子(とれとれバイク)

渡瀬美佳(とれとれバイク)

(2003 MTB-O WC 参加)

*:「とれとれ」とは、1/25000 地図のコピーをもとに、設定されたコースを MTB で走破する競技。オリエンテーリングに比較すると、地図読みより、シングルトラック(O-map でいうところの小径)を走ることになり重点がおかれている。

そこから 1 ヶ月あまりのあいだに、エントリー、チームとしての国内合宿(富士と八ヶ岳で開催)、スポンサー探し、飛行機や宿の予約、あるいは勤務先との休暇取得交渉など大量の雑務をこなすことになった。多い日には、打ち合わせメールが(平日の昼間から)数十通飛びまくっていた。

スポンサー探しは、期間が短いこともあり難航したが、チームウェア(T シャツ)をスポーツウェアメーカーである H.I.D さんに格安で提供していただき、バイクジャージもチームとして揃えた。両方とも JOA の新ロゴがはいった本邦初(!)のウェアである。



バイクジャージ(胸には JOA のロゴ)

大会はフィンランドのヨエンスーという、ヘルシンキから東へ 500km ほどのロシア国境に近いところでの開催である。フィンランドでは毎年恒例のフット競技の 5 日間大会である Fin-5 ならびにトレイル・オリエンテーリング世界選手権大会と併催の形で行われた。



開会でトレイルのチームと一緒に

日本チームは、数便に別れて現地入りしたが、モデルイベント開催前日の深夜にはなんとか全員が現地に集合した。(3 名の自転車がバゲッジロストしたりとのトラブルもあったが)

大会はフィンランドの常として、標高差が少ない地形で、またこの地方に特有の大小の凹地が散在するテレインであった。(凹地の多くは湖、一部は単なる凹地となっている。)

また MTB-O は通常、地図上に記載された道を外れることは、(たとえ自転車を担いでも禁止とされるが)今回はローカルルールとして、どこを通過してもよいこととなった。よって、今回は、道を回るのか林の中を突っ切るのかの判断も求められることになる

日本チームの目標は、過去 3 回の大会を上回る成績を収めることであった。特にリレーでは毎回、最下位なので、そこからの脱出が一番大きなターゲットである。

モデルイベント

当地の地形や地図表記を確かめながらの走行。フィンランドにもかかわらず 30 度の気温であった。この暑さと宿舎の狭さ(男子は 4 人部屋に 5 人!)そしてイベントセンターの食事には、大会期間中苦しめられた。



ロング予選

この地方には、そこそこ起伏のあるトレイン。路面の状態は良好であり、ほとんど自転車に乗ったままのレースとなった。

予選通過のボーダーが低くなった女子は、原田と渡瀬が通過。原田は余裕の通過であった。渡瀬は途中でバイクトラブルに見舞われ、後半はすべて自転車を押しての競技であったが、その苦勞が報われた。

一方、男子は予選の予選通過のボーダーも高く、全員が B ファイナルにまわることとなった。

ロング予選 2006 年 7 月 9 日

M1

1	Jussi Makila	FIN	1.06.07
25	新隆徳	JPN	1.33.56
31	芝田敏仁	JPN	2.05.06

M2

1	Maxim Jurkin	RUS	1.06.02
31	宮原崇	JPN	1.45.04
33	渡司充	JPN	1.52.21

M3

1	Mika Tervala	FIN	1.02.09
24	足立辰彦	JPN	1.52.17
	早野哲朗	JPN	DQ

W1

1	Ksenia Tchernykh	RUS	1.00.52
29	渡瀬美佳	JPN	2.26.34
	森本深青子	JPN	DQ

W2

1	Maret Vaher	EST	1.03.47
26	原田彩子	JPN	1.37.12

ミドル決勝

ミドルは決勝のみの 1 発レース。前日とは打って変わって、細かい道のネットワークと凹地が無数に点在するトレインで行われた。特に前半は、追走をさけるためのバタフライコースとトリッキーな凹地、ウッドチップが撒かれた路面に苦しめられることになった。

その中でも、男子の新が 115 名中 90 位となった。

ミドル決勝 2006 年 7 月 10 日

M

1	Tuomo Tompuri	FIN	49.50
90	新隆徳	JPN	1.19.02
100	早野哲朗	JPN	1.29.06
104	宮原崇	JPN	1.49.54
106	足立辰彦	JPN	1.53.17
107	渡司充	JPN	2.21.11
	芝田敏仁	JPN	DQ

W

1	Michaela Gigon	AUT	51.38
53	渡瀬美佳	JPN	1.53.01
55	森本深青子	JPN	2.42.46
	原田彩子	JPN	DQ

ロング決勝

おおざっぱな地形と男子は 40km。女

子でも 29km というロングにふさわしいコース。女子 2 名が A 決勝。他は B 決勝へ参加。

レース途中には一時雨にも見舞われた。ロング系の種目では、地図読みよりバイクのスキルが決め手となるようである。

ロング決勝 2006 年 7 月 12 日

MA

1	Mika Tervala	FIN	2.03.06
---	--------------	-----	---------

WA

1	Christine Schaffner	SUI	1.51.28
53	原田彩子	JPN	2.54.48
55	渡瀬美佳	JPN	3.06.20

MB

1	Hendrik Hess	GER	2.30.44
17	新隆徳	JPN	2.56.03
23	足立辰彦	JPN	3.12.29
24	宮原崇	JPN	3.17.32
26	渡司充	JPN	3.28.55
28	早野哲朗	JPN	3.44.55
	芝田敏仁	JPN	DQ

WB

1	森本深青子	JPN	3.43.00
---	-------	-----	---------



会場を通過する森本選手（ロング決勝）



会場脇の急坂を登る原田選手（ロング決勝）

リレー

前日のロング決勝と同じ会場を使用して行われた。トレインの重複は一部のみ。男子 2 チーム。女子 1 チームが参加。

男子の A チームは、個人でも日本と同じような成績であったクロアチアに快勝。また、3 走での勝負となったアイルランドにも勝利した。（アイルランド 3 走が失格したため）

その他、実力的にはるか上位であるイタリアとオーストラリアがそれぞれ 2 チームとも失格だったため、計 4 カ国に先着し、チームとしての最下位脱出

の目標も達成できた。隣接コントロールに引っかかったチームが多かったようである。

男子 B チームも無事完走したが、女子は残念ながら失格となった。

リレー男子

1	FINLAND1	2.56.12
2	RUSSIA1	3.00.47
3	SWIZERLAND1	3.02.47
25	JAPAN1	4.22.50
	新隆徳	1.20.57
	宮原崇	1.27.57
	早野哲朗	1.33.54
27	JAPAN2	5.17.53
	足立辰彦	1.34.11
	芝田敏仁	1.47.33
	渡司充	1.56.07

リレー女子

1	RUSSIA1	3.10.06
2	FINLAND1	3.16.02
3	FINLAND2	3.23.43
4	CZECH	3.28.11
	JAPAN	DQ
	原田彩子	2.00.34
	渡瀬美佳	DQ
	森本深青子	



最下位脱出を果たしたリレーチーム

リレー後のバンケットでは、浴衣などでばっちり決めた日本女子は人気の的であった。



大会終了後は、即日本へ旅立つ者、あるいは数日の観光を楽しむ者とそれぞれにヨエンスーを後にした。

来年の MTB-O WOC は 8 月 20 日から 25 日までチェコで開催される。

（早野哲朗）